

第1回研究会の報告

日時：2013年4月20日（土）14：00～17：00

会場：早稲田大学戸山キャンパス 33号館 第10会議室

このたび開催された「信頼社会」研究の第1回研究会では、参加者約20名とともに、二つの話題提供と質疑、加えて、会務報告が行なわれた。話題提供者は、御子柴善之（文学学術院教授）と山田真茂留先生（同教授）である。



「信頼と人権」と題する御子柴報告は、人間社会の基盤をなすかに見える「人権」に対して、さらに基底的位置を「信頼」が占める、というO・オニールの指摘を手がかりに、信頼概念を検討するものだった。政治学、心理学、経済学、理論社会学、教育哲学における信頼概念の定義が紹介された上で、もっとも基礎的な内容をもつ、ジンメル（G. Simmel）の定義が検討された。次いで、ジンメル（G. Simmel）の定義を裏づける彼の「生命観」を視野に入れつつ、信頼のもつ一方向性が強制的に取り出され、それを手がかりに「相互性」を克服する視点が提起された。併せて、天童荒太の作品『歓喜の仔』の末尾における「信頼」への言及が検討材料として提示され、質疑において活発な議論が行なわれた。議論を通して、普遍主義的な議論スタイルの問題性が指摘された。（報告：御子柴）



「生活公共性の比較社会学」と題する山田報告は、公共性や信頼に関してはこれを一般的・抽象的に論じるのではなく、むしろ生活に密着したところから地道な検討をし直す必要があると説くものであった。具体的な作業としては、多様なケースを通じて、近代的理念とされる一般的な信頼の一般性の度合いや共有価値の共有性の範囲にまつわる疑義が提起され、それぞれの社会における現実を比較社会的に見極めることの重要性が示唆された。報告に引き続いて行われた討論では、個別的・具体的な水準に立ち返ったとして、これを再び一般的・抽象的な議論へと練り上げて



いくにはどうしたらいいのかという根本的な問題が提起されたほか、企業組織・教育・地域社会・階層などの領域に関して多様な議論が交わされた。（報告：山田先生）



第2回研究会は、6月22日（土）の開催、岡部耕典先生（文学学術院教授）と藤野京子先生（同教授）からの報告を予定している。

（文責：御子柴善之）